

三浦達司教授定年退職記念号発刊に寄せて

高崎経済大学経済学会理事 潜 道 文 子

三浦達司先生は、昭和17年、広島県にお生まれになり、昭和48年3月、早稲田大学大学院理工学研究科博士課程を単位取得満期退学の後、早稲田大学産業技術専修学校産業経営学科、東京理科大学工学部経営工学科等での兼任講師を経て、昭和54年4月に高崎経済大学経済学部経営学科に専任講師として着任されました。その後、昭和55年4月に助教授、61年4月には教授に昇任され、これまで29年間にわたって、本学の研究・教育に携わってこられました。平成20年3月31日をもって定年を迎えられます。三浦先生の長年の本学への貢献・ご尽力に感謝申し上げ、ご退職を記念いたしまして、本学経済学会では退職記念号（『高崎経済大学論集』第50巻第3・4合併号）を発刊いたします。

先生は、本学へ着任以来、生産管理、インダストリアル・エンジニアリング、経営工学、演習等の講義を担当され、熱意にあふれた授業をなさってこられました。同時に、学内の教育運営面での仕事にもご尽力をいただき、学生相談室長、経済学部経営学科長、就職委員長、評議委員といった要職を歴任してこられました。

また、三浦先生は、ご研究の分野では、昭和50年に、日本 IE 文献賞（日本インダストリアル・エンジニアリング協会）、昭和52年に、日本規格協会標準化文献賞（日本規格協会）を受賞されるなど、この分野の研究水準の向上に大きな貢献をされています。学際関係の運営におきましても、極めて多大な功績を残されており、日本IE協会では、専門機関紙 Iereview のレフェリ委員、編集委員会委員長、理事などを務めてこられました。また、日本経営工学会では、評議委員や学会誌（『経営工学会誌』）のレフェリ委員としてご活躍されてこられました。

三浦先生のご研究業績における主なテーマは、生産管理、経営工学をベースに①標準化、②GT方式（Group Technology）、③食品機械の安全・衛生設計基準、④HACCP システムを導入した食品、ならびに食品機械の生産管理システムの設計、⑤トレーサビリティシステムの設計、⑥生産技術を活用した自動化システムの設計に大別されると思います。ここ数年、食品分野の企業による偽装が大きな問題となっておりますが、偽装を防止する厳格な基準づくりやト

レーサビリティシステムに関するご研究に長年、携わってこられた先生のご功績は高く評価されるものであり、この分野でのパイオニア的研究者である先生の先見の明には、深く感嘆いたします。

さらに、先生は、近年、「モノづくり」と IEr. (インダストリアル・エンジニア) の役割についてご研究され、21世紀のモノづくりの本質を究明し、人類の豊かな生活とその発展に役立つ IE と IEr. のあり方について提唱されています。先生のご研究の幅広い視点に啓発される思いがいたします。

また、三浦先生は、ご研究の成果を実務の世界に生かすことにもお力を注がれ、日本機械工業連合会・日本食品機械工業会や食品産業センターの各種委員会委員長および主査なども歴任されています。日本における食品機械工業分野の発展への先生のご貢献は実に偉大なものであり、特に、食品加工機械分野の JIS 規格策定および改正プロジェクトでは、中心的メンバーとして、世界の規格に関わる膨大な資料の丹念な調査をはじめとする長期にわたる作業を牽引し、世界で通用する規格づくりのために多大なご尽力をされました。

加えて、1978年以来、毎年、開催されている、食品機械を中心に食品製造プロセスに関する最新情報を発信する「国際食品工業展 (FOOMA JAPAN)」の立ち上げをなさるなど、まさに、日本の、そして世界の「食の安全・衛生」を通じて、人々に安心を与えることにつながる実務的かつ現実的活動の基礎を築いてされました。

さらに、企業において欠くことのできない標準時間の設定とそれにより求められる標準原価の算出、ならびに納期に対応したリードタイムを算出し、スケジュールを組む際に活用できる技法である MTM 法や MODAPTS 法のプラクティショナー、およびインストラクターの国際ライセンスを取得され、当時、早稲田大学教授の横溝克己先生と日本モダプツ協会を設立し、我が国だけでなく、世界各国で、その普及に努めていらっしゃいます。

三浦先生は、教育活動にも大きな情熱をもたれ、学生の指導に取り組んでされました。根気強くわかりやすい先生のご指導は、学生にとっても学問への興味や学ぶ意欲を喚起してきました。また、温厚でおやさしい三浦先生は、学生の成長を常に願い、学習面だけでなく、一人暮らしの学生たちの食事の心配や就職活動にもお心を配っていらっしゃったとお聞きしております。

このような大学内外での研究・教育活動以外にも、昭和53年以来、身体障害者雇用促進に関わるボランティア活動を行ってされました。社会に対する先生の幅広いご関心と実行力に感嘆すると同時に、先生が人を大切に思い、人を育てることに長年、確固たる信念をもたれてこられたことに、尊敬の念を禁じ

えません。

最後になりましたが、長い間、ご指導・ご鞭撻をいただきまして、誠にありがとうございました。先生には、引き続き、特任教授として本学の教育・研究にご参与いただくことになっております。われわれは、今後も三浦先生のご指導を賜ることができますが、ここに、改めまして、先生のますますのご健勝、そしてご活躍を祈念申し上げるとともに、今後もわれわれの大きな指針となつて頂けますことを願います次第でございます。